

## オギノ、「ボトル to ボトル」水平リサイクルを開始

サントリーグループ・アサヒ飲料と「ペットボトルリサイクルの実施に関する協定書」を締結



SUNTORY

Asahi  
アサヒ飲料

株式会社オギノ(本社:山梨県甲府市、代表取締役社長:荻野 寛二、以下「オギノ」)は、サントリーグループ(以下「サントリー」)、アサヒ飲料株式会社(本社:東京都墨田区、代表取締役社長:米女 太一、以下「アサヒ飲料」)と、「ペットボトルリサイクルの実施に関する協定書」を締結し、オギノの 29 店舗を対象に、店頭で回収した使用済みペットボトルを、新たにサントリー・アサヒ飲料のペットボトルに生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」水平リサイクルを、2023年6月5日(月)より開始します。

オギノは、山梨県、長野県、静岡県に食品、住居関連品、衣料品を販売するスーパーマーケット、衣料専門店を合わせて全 47 店舗展開しています。オギノは、循環型社会の構築を目指し、SDGs の考え方を取り入れ CSR 活動に取り組んでいます。その一つとして、SDGs が掲げる目標 12「つくる責任つかう責任」、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」などを意識し、ペットボトルや食品トレイ、牛乳パック、缶、古紙の店頭リサイクルに注力しています。2019 年以降は、古着や布団、段ボールの回収も行っています。

オギノの店頭リサイクルは約 20 年前から実施しており、2022 年度のペットボトルの回収量は約 274,000kg で、ペットボトル約 1,100 万本分に相当します。CO<sub>2</sub> 排出量の削減量は約 890トン※<sub>1</sub>で、これは杉の木約 63,000 本分、杉の木の森林面積に換算すると東京ドーム約 8 個分の年間 CO<sub>2</sub> 吸収量に相当※<sub>2</sub> します。これまでに回収したペットボトルは、プラスチック製品の原料として再資源化されてきました。今回の取り組みで、お客様のご協力により集められたペットボトルの 6 割にあたる約 162,000kg が、リサイクル施設にてサントリー・アサヒ飲料のペットボトルに水平リサイクルされます。水平リサイクルとは、同一種類の製品に生まれ変わらせることで、資源をくり返し循環させられることが利点です。残りの 4 割は、食品トレイやプラスチック製品の原料としてリサイクルされます。また、オギノでは、お客様の水平リサイクルの取り組みへの参加促進を目的に、ペッ

トボトルリサイクルについて学んでいただくイベントの開催を予定しています。

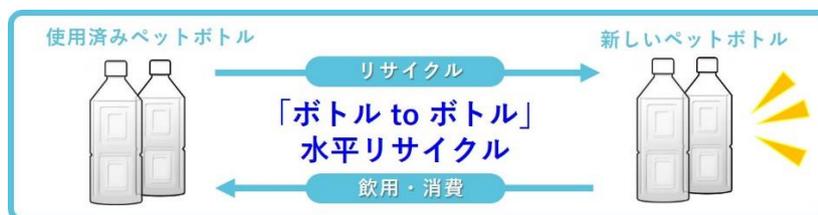
※1 CO2 排出量の削減量は、環境省「3R 行動見える化ツール」より当社にて算出した目安値

※2 杉の木の木の本数・森林面積、東京ドーム面積は、当社にて算出した目安値

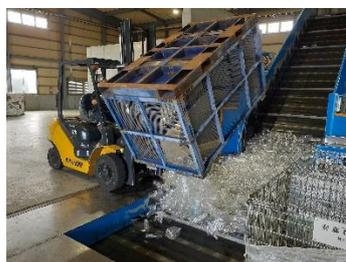
サントリーグループは、2030 年目標として、全てのペットボトルに、“リサイクル素材あるいは植物由来素材のみを使用し、化石由来原料の新規使用をゼロにする”という「ペットボトルの 100% サステナブル化」実現を目指しています。サントリーグループの中で、国内・海外の食品事業を担うサントリー食品インターナショナル株式会社では、「サントリー天然水」「BOSS」などのロングセラーブランドを中心に、清涼飲料、健康食品など多岐にわたる事業を展開しています。

アサヒ飲料は、東京都墨田区に本社をおく各種飲料水の製造・販売メーカーです。「未来に安全安心で快適な地球を。」を環境方針に掲げ、プラスチック使用量の削減や食品ロスの削減、水源地保全活動などに取り組んでいます。プラスチック使用量の削減については、持続可能な容器包装の実現に向けた目標「容器包装 2030」を策定し、2030 年までに PET ボトルを 100%環境配慮素材(リサイクル PET またはバイオマス PET)に切り替えることを目指すほか、ラベルレスボトルの拡大によるプラスチック製包装の削減を目指すなどの取り組みを推進しています。

オギノは、「食・住・衣を通じて、変化するお客様の日常生活を絶え間なく支え、創造し、豊かにする」を企業使命とし、今後も地域社会を支える小売業として、お客様やお取引先様と一体となって環境に配慮した活動を推進してまいります。



《オギノ リサイクルステーション》



《ペットボトルの中間処理》



《リサイクル素材使用商品》

以上